



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 36 号

2021 年 11 月 18 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

11月18日のSPさん

11月18日、須江^{すえ}SPが北部中学校の新たな仲間として加わってくれました。須江SPは美術が専門とのことで他の市町の黒板アートボランティアにも参加した経験があるそうです。先日のSP研修会にも参加をしてくれました。意欲と魅力が溢れるSPさんです。SP活動初日の校内見学では、特徴のある校舎（オープン・スクール）や校内の掲示物を見て、何度も「すごい……」と呟いていました。いつもニコニコと朗らかな笑顔が魅力の須江SP、これから北部中学校でのSP活動で楽しみながら、学んでいってくださいね。

この日は急遽、ベテランの幸^{ゆき}SPも活動に来てくれました。特別支援学級の国語の授業で、一人の生徒をしっかりと支援してくれていました。「よし、頑張ろう。」「いいよ、いいよ！できたね！」「次、ここやってみようか。」声かけのバリエーションが豊富です。途中、生徒の集中が切れそうになってしまった時には、「どうする？休憩する？」と声をかけていました。すると生徒は首を横に降り、「続けます」と答えて、また問題に取り組み始めました。こうした集中が切れそうな瞬間を見逃さず、間髪入れずにこの「休憩する？」という言葉をかけられる幸SP。ベテランSPさんさすが！の対応でした。一人の先生で見ているより、ずっと生徒にとって密度の濃い、集中して取り組める時間になったと思います。



北部中学校の後には、片葩小学校に行きました。この日は、鉄川SPと茂木SPが来ていました。片葩小学校の職員室のホワイトボードには、その日に来るSPさんの一日の予定が書き込まれています。そこには、「大放課、可能なら体育館、4年活動手伝い」と書き込まれていました。この日、4年生は福祉実践教室があるそうで、カラーコーンや車いすの準備に人手が必要だったようです。こうした“ちょっとした準備”も、SPさんが来てくれると助かります。片葩小学校ではよくある光景で、まさしくPartnerの関係です。一緒に準備する子どもたちも、SPさんが来てくれると満面の笑みで駆け寄ってきて、嬉しそうにみんなで準備をしていました。

